

1人1台時代の

ICT活用

第5回

スクールタクトで探究学習を効率的に

後藤正樹 ((株) コードタクト代表取締役)

「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」

来年度から学年進行で施行される高校の新学期指導要領では、「総合的な探究の時間」や「理数探究」などの領域、科目が加わります。そのような科目などでは、個人やグループで課題を設定し、仮説・検証、調査・分析、まとめ、発表、共有・交流、振り返りという一連の活動を通して、探究学習を行う授業形式が一般的です。

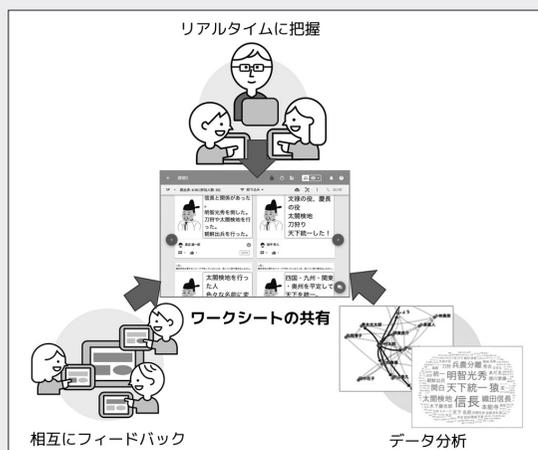
つまり、科目を学ぶ時に内容の理解だけでなく、「深い学び」につながる学び方(どのように学ぶか)が重要になって

きます。また、探究科目に限らずすべての科目でも、主体的・対話的で「深い学び」の視点が求められています。しかし、学習内容が広範囲な高校科目において、限られた授業時間の中で探究学習を行うのは難しいというのが、先生の本音ではないでしょうか。

スクールタクトと探究学習

1人1台時代のICT活用としては、ドリルアプリのように自動採点が行え、生徒の理解に応じて適切な問題を出し「個別最適な学び」を促進するものがICTの価値と思われがちですが、「深い学び」を促進することにもICTは非常に効果的です。

図1



「深い学び」では、ワークシートなどを使って思考を整理し、その内容を共有し、相互にフィードバックし改善していくというサイクルが重要です。スクールタクトは、システム

